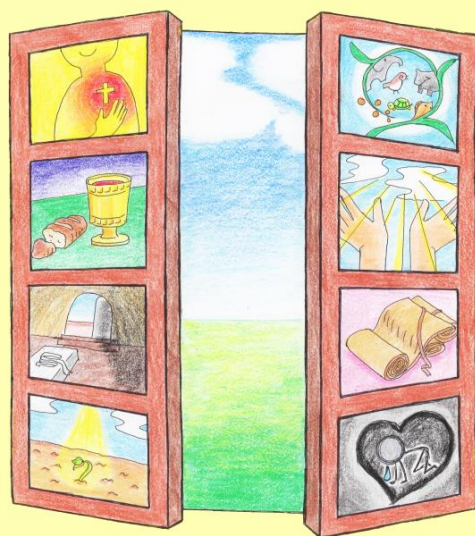


LET'S TALK ABOUT CHRISTIANITY!

聖書を知りたいあなたのために

BIBLE LESSON FOR ADULTS

大人のための聖書の手引き



日本同盟基督教団・教会教育部

はじめに

これは、キリスト教に興味をお持ちの方のためのテキストです。聖書には何が書かれているか、聖書の神様はどんな方か、なぜイエス・キリストは十字架にかけなければならなかったのか、キリスト教の救いとは何かなど、キリスト教の基本的な教えが記されています。まずはお手に取っていただければ感謝です。一人で読まれてもいいですし、だれかと一緒に学ばれてもいいと思います。

なお、日本同盟基督教団教会教育部のホームページでテキストをダウンロードすることもできます。合わせてご利用ください。

聖書の神様があなたに真理を見せてくださいますように。

2021年3月1日 日本同盟基督教団 教会教育部



聖書を知りたいあなたのために

目次

Lesson 1	聖書について.....	3
Lesson 2	神様について.....	11
Lesson 3	人間と罪について.....	19
Lesson 4	イエス・キリストについて.....	27
Lesson 5	救いの決心.....	35
Lesson 6	洗礼（バプテスマ）について.....	43
Lesson 7	教会と教会生活.....	51
Lesson 8	クリスチャンの生活.....	59

聖書について

聖書を読んだことがありますか？

聖書は世界の約 2,500 の言語に翻訳され、世界中の多くの人々がその中のことばに影響を受け、人生が変わるほどの経験をしている不思議な書物です。

リンカーンは言いました。「聖書は神が人間に下さったもっともすばらしい賜物である。人間にとって望ましいものはすべて聖書に含まれている。」神が人間に下さったすばらしい書物と言えるのはなぜでしょう？なぜ聖書は人々の人生に影響を与え続けているのでしょうか？ごいっしょに聖書の不思議について学んでみましょう。

この課で学ぶこと

1. 聖書はいつ、だれが書いたのか？

- (1) いつ？
- (2) だれが？
- (3) 本当の著者は？

2. 聖書には何が書いてあるのか？

- (1) 旧約聖書には何が書いてあるのか？
- (2) 新約聖書には何が書いてあるのか？

3. 聖書が書かれた目的はなにか？

- (1) 信じていのちを得るため
- (2) 神様のみこころを知るため



1. 聖書はいつ、だれが書いたのか？

(1) いつ？

聖書は旧約聖書と新約聖書に分かれています。旧約聖書は BC1500年～BC400年ごろに書かれました。旧約聖書最後のマラキ書が書かれてからイエス・キリストの誕生までに、約 400 年の空白期間がありました。新約聖書は、イエス・キリストが生まれ、十字架にかけられ、復活された後、AD50年～100年頃までに書かれました。聖書は実に1600年の年月をかけて書かれた書物なのです。

(2) だれが？

聖書は、約 40 人の記者によって書かれました。預言者でありイスラエルの指導者であったモーセ、預言者サムエル、イスラエルの王であったダビデ、学者エズラ、イエス・キリストの弟子たち、使徒パウロなど、さまざまな職業、性格、才能をもった人々が聖書の記者です。

(3) 本当の著者は？

1600年もの長い時間をかけて書かれているにもかかわらず、旧約聖書と新約聖書、また各書の内容はお互いに矛盾していません。普通の本がこれだけの時間をかけて書かれ、これだけ多くの記者



豆知識

西暦とは？

世界共通で使われている西暦は、イエス・キリストの生まれたと考えられていた年を紀元1年として定めたものです。後に、イエス・キリストの誕生した年が BC4 年頃だったことがわかりましたが、最初に決められたまま現在も使われています。BC は英語で Before Christ(キリスト前)、AD はラテン語で Anno Domini(主の年に)の略号です。

1 聖書について

をもち、しかもどこをとってもテーマが同じということはまずありません。実に不思議な書物です。どうしてこんなことができたのでしょうか。

神様はモーセに、「このことを記録として文書に書き記」（出エジプト 17：14）すよう命じました。また神様は預言者エレミヤに、「あなたは巻き物を取り…、わたしがイスラエルとユダとすべての国々について、あなたに語ったことばをみな、それに書き記せ」（エレミヤ 36：2）と言われました。

このように聖書のことばは、神様が多くの記者たちに記すことばを与えられたものです。ですから、内容はお互いに矛盾しないのです。聖書はこのことを「聖書はすべて神の靈感による」（II テモテ 3：16）と記しています。「神の靈感による」とは、神様の霊（聖霊）によって書く内容を教えられた人々が書き記したということです。記者たちは神様のことばに書き足したり、減らしたりしませんでした（黙示録 22：18-19）。つまり、聖書の本当の著者は神様です。聖書は神のことばなのです。

2. 聖書にはなにが書いてあるのか？

旧約聖書、新約聖書の「約」は「契約」を意味します。神様が人と結ばれた契約で、旧約は古い契約、新約は新しい契約です。では神のことばである聖書には、何が書かれているのでしょうか。聖書の目次を開いてみましょう。

（1）旧約聖書には何が書いてあるのか？

旧約聖書は全部で 39 巻あり、ページ数も日本語では 1,500 ページを超える長い書物です。おもにヘブル語で書かれました。旧約聖書に

1 聖書について

は、神様がこの天地をお造りになったこと、神様は唯一であるということなどが書かれています。

神様は旧約聖書の中で、罪を持つ人間を救うための愛の計画をお示しになりました。そのためにイスラエル民族をお選びになり、彼らを祝福するという契約を結ばれました。しかしイスラエル民族はこの契約を破り、神様を裏切ってしまったのです。それに対して神様は、預

◆旧約聖書の構成と内容◆

・律法（創世記～申命記）

記者はモーセ、モーセ五書とも呼ばれる。神様による天地創造、神様の愛を私たちに示すためにイスラエルという一つの民族を選ばれたこととその民の歩み、神様が下さった律法が記されている。

・歴史書（ヨシュア記～エステル記）

歴史書に分類される列王記や歴代誌は、おもにイスラエルの王の列伝。どれほどイスラエルの民が神様を裏切ってきたか、逆に神様がどれほど忍耐強く愛されたかが記されている。

・詩書（ヨブ記～雅歌）

詩篇は祈りの詩、ヨブ記はこの世の苦しみの意味を記している。神様の知恵に満ちている箴言、伝道者の書は、知恵の書と呼ばれる。

・預言書（イザヤ書～マラキ書）

旧約聖書後半の多くの預言書は、神様を裏切り続けるイスラエルの民に、預言者を通して神様に立ち返るようにと語られる神様の愛のメッセージが含まれている。またその預言の中に、やがて地上においてになる救い主イエス・キリストが明確に示される。今私たちは、その預言が確かに実現したことを知ることができる。

1 聖書について

言者を送り、ご自身に立ち返るようにお伝えになりました。旧約聖書を読むと、神様は力強く、すべてを保っておられる創造主であり、また愛とあわれみに満ちた人格的な方であることを知ることができます。各書は必ずしも時代順に並んでいるわけではありませんが、後半になればなるほど、神様が罪と死から人類を救われるご計画の概要が明らかになっていきます。

(2) 新約聖書には何が書いてあるのか？

◆新約聖書の構成と内容◆

・福音書

4つの福音書は、この地上に来られたイエス・キリストのご生涯、教え、奇跡などが、4人の記者の視点から記されている。4つあることで、イエス・キリストの歩みを立体的に知ることができる。

・使徒の働き

イエス・キリストが復活され、天に帰られた後、聖霊が下り、弟子たちがイエス・キリストの復活の証人としてキリストを宣べ伝えたこと、聖霊により生み出されていった教会の歩みについて書かれている。

・手紙

迫害の中にあつたクリスチャンを励ましたり、信仰の成長へと導くために、おもにパウロやペテロらが教会にあてて書いた手紙。聖書の教えがまとめられており、理解するためのよい助けになる。

・ヨハネの黙示録

聖書最後の書である黙示録は、この世の終わりや新しい天と新しい地について、神様がヨハネに示されたことが書かれている。

1 聖書について

新約聖書は、当時の共通語であったギリシャ語で書かれ、全部で27巻、聖書の約1/3を占めます。旧約聖書最後のマラキ書が書かれてから約400年後、預言者たちが預言した通り、イエス・キリストがイスラエル民族の中にお生まれになります。そのイエス・キリストについて書かれているのが新約聖書です。新約聖書に示される新しい契約とは、自分の罪を悔い改め、イエス・キリストが罪から救ってくださる救い主であることを信じれば、神様は私たちを罪と死から救ってくださるといふ契約です。

3. 聖書が書かれた目的はなにか？

聖書が書かれた目的は、大きく二つあります。一つは、「人が信じていのちを得るため」、もう一つは「人に神様のみこころを知らせるため」です。

(1) 信じていのちを得るため

ヨハネの福音書にはこう書いてあります。

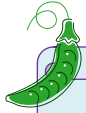
「これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである」(ヨハネ20:31)。また、このようにも書かれています。「聖書はあなたに知恵を与えて、キリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます」(IIテモテ3:15)。

聖書が書かれたのは、それを読む人々がイエス・キリストが自分の救い主であることを信じ、罪が赦されて救われるためです。その結果、神の子どもとされ、神の恵みの中に生きることができます。聖書を読むと、なぜイエス・キリストが十字架にかかれ、復活されたかがわ

かります。もし真剣に真理を求めて聖書に取り組むなら、必ずそれを知ることができるのです。

(2) 神様のみこころを知るため

もう一つの聖書の目的は、人が神様のみこころにかなうことは何かを知り、それに従って生きることができるようにするためです。ヘブル人への手紙4章12節には、「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます」と書かれています。



豆知識

聖書はどのように私たちの手に届くようになったか？

昔は、神様のことばを聞いた人々が自分の口で神様のことばを伝えていました。その後、神様はご自分のことばが文字になるようにされました。写本として伝えられ、それが本の形にまとめられたのが聖書です。聖書は、あらゆる時代、あらゆる地域に住む人々が、神様のことばを知るための神様の知恵なのです。

聖書には何が正しくて、何が間違っているかが書かれています。何が神様に喜ばれることで、何が神様を悲しませることか、と言い換えることもできます。何がよくて何がいけないか、聖書の基準はとてはつきりしています。毎日の生活の中で、どう行動したらよいか、神様は聖書を通して私たちに教えてくださるのです。

また、「神のことばは生きていて、力があり」と書いてある通り、生きている神のことばは人の歩みを正しい方向に導く力があります。

1 聖書について

このように聖書は、単なる書物ではありません。生きている神のことばであり、今も神様は聖書を通して私たちに語りかけておられます。私たちは、聖書を通して、イエス・キリストを十字架にかけてくださるほどに私たちを愛してくださっている神様を知ることができるのです。つまり、聖書は神様から私たちに贈られたラブレターなのです。

まとめ

聖書は神のことばであり、人がイエス・キリストを信じていのちを得るために書かれた神様から人へのラブレターなのです。

Q

考えてみましょう

1. 知っている聖書のことばはありますか？
2. 聖書の本当の著者はどなたでしょうか？あなたはそのことについてどう思いますか？
3. あなたにとって聖書はこれからどんな意味をもつ本になると思いますか？

神様について

あなたは自然の神秘を見て、感動したことがありますか？

ある自然科学者は、「自然や生き物について知れば知るほど、だれかがこれをデザインして造ったに違いないと思う。偶然の連続がこれほどすばらしいものを造れるわけがない」と言っています。

聖書は唯一の本当の神様が、この世界を造られたと言っています。聖書が示す神様とはいったいどのような方なのでしょう？

この課で学ぶこと

1. この世界を造られ、治めておられる創造主

- (1) 天地創造
- (2) 人間の創造
- (3) この世界を治めておられる

2. 霊であり、三位一体の神様

- (1) 神様は霊である
- (2) 神様は三位一体である

3. 神様のご性質

- (1) 神様は聖、義、愛である
- (2) 神様は全知全能である
- (3) 神様は変わることがない

1. この世界を造られ、治めておられる創造主

(1) 天地創造

聖書の最初のことば、創世記1章1節には、「はじめに神が天と地を創造された」と書かれています。聖書によると、神様はこの天地がないときからおられた唯一の方であり、ご自分の意志で、なにもないところから、この世界をお造りになりました。この方は、「神は仰せられた。『光、あれ。』すると光があった」（創世記 1：3）とあるとおり、ことばをもってこの天地を造られました。この世界は決して偶然にできたのではなく、神様の壮大なご計画に従って造られたのです。

(2) 人間の創造

神様は、天地創造の最後に、「神は人をご自身のかたちとして創造された」（創世記1：27）とあるとおりに、ご自身に似せて人間をお造りになりました。人間が造られたのも偶然ではありません。神様のご計画と目的があって造られたのです。私たち一人一人が顔も性格も違い、個性豊かであるのは、それぞれの人生に神様の目的があるからです。ですから、私たちそれぞれの人生には意味があります。

(3) この世界を治めておられる



豆知識

神とは？

日本にはもともと神という言葉があり、そのイメージは、厳密には聖書の神様のイメージとは違います。聖書の神にあたる単語を日本語に訳すとき、日本語の「神」という言葉に訳すことで混乱するのではないかという懸念があったほどです。聖書の神様は、唯一の創造神であられ、日本の八百万（やおよろず）の神々とは異なるお方です。

神様はこの天地を造られただけではありません。今もこの世界のあらゆるものを治め、保っておられます。たった一羽のすずめさえも神様のお許しなしに地に落ちることはない、と聖書は記しています（マタイ 10：29）。神様のご支配は、私たちが想像もつかないほど世界のすみずみにまで及んでいるのです。

2. 霊であり、三位一体の神様

(1) 神様は霊である

聖書は神様は霊であると書いています（ヨハネ 4：24）。神様が霊であるということは、私たちの目で見ることにはできない存在だということです。でも神様は確かに、この世界のあらゆるところに存在しておられます（詩篇 139：7-8）。それは、世界中のどこでも神様に助けを求めて祈る者の祈りを、聞いておられるということも意味しています。

(2) 神様は三位一体である

神様は唯一です。聖書には、「**主は唯一である**」（申命記 6：4）と書かれています。そして、聖書を読むと、唯一の神様は三つの人格をお持ちの方だということがわかります。神様の人格のことを「位格」という言葉で呼び、唯一の神様が三つの位格をお持ちであることを、「三位一体」と言います。三つの位格とは、父なる神様、子なる神様（イエス・キリスト）、聖霊なる神様であり、それぞれが完全な神です。

イエス様は、父なる神様との関係を、「**わたしと父とは一つです**」（ヨハネ 10：30）と言っておられます。一つとは、同じ性質という意味です。また、「**父はもう一人の助け主をお与えくださり**」（ヨハ

ネ 14:16) とも言っておられ、この「もう一人の」ということばにも、同じ性質という意味があります。助け主とは聖霊なる神様です。

三位一体とは、別の位格でありながら、同じ性質を持っておられる神様のあり方なのです。マタイの福音書 28 章 19 節には、「父、子、聖霊の名において」と書かれています。「三位一体」という言葉は、聖書には出てきませんが、聖書は明らかにそれを示しているのです。

教会は神様が三位一体であられることをとても大切にしています。礼拝の最後の祝祷の中には、「父、子、聖霊」が出てきます(II コリント 13:13)。また特に頌栄歌の中にも、三位一体の神様をほめたたえる曲が多くあります。

唯一の神が、三つの位格をもっておられ、それぞれが完全であるということを、人間の頭と知識で完全に理解するのはむずかしいことですが、三位一体の唯一の神様が生きて働いておられるということは、私たちにとって大きな恵みなのです。



コーヒブレイク

どのように神様の存在を知ることができる？

聖書は、人は聖書を読んだことがなくても、神様が存在しておられることを知っていると言っています(ローマ 1:19-20)。それは、神様が被造物としての人間の心に、神様についての知識を植え付けられたからです。しかし、聖書は「神はいない」(詩篇 14:1) と言って、神様の存在を否定する人間がいることも語っています。神様はおられるのか、神様とはだれなのかをはっきりと教えてくれるのは聖書なのです。

3. 神様のご性質

(1) 神様は聖、義、愛である

聖書から知ることのできる神様のご性質はたくさんありますが、その中でも特に聖、義、愛という三つのご性質は神様を理解するうえで、とても大切なものです。

①神様は聖である

神様が聖い方であることは、聖書のいくつもの箇所が記しています（詩篇 71：22、イザヤ 1：4）。中でもイザヤ書6章には、聖なる神様の神秘と荘厳さが描かれています。聖いということばには、世俗から切り離されるという意味があり、神様は罪から完全に離れた方です。そして、聖書は私たちに、「あなたがたは自分の身を聖別して、聖なる者とならなければならない。わたしが聖だからである」（レビ 11：44）と勧めています。

②神様は義である

義とは、正しいという意味です。神様はいつも正しい行動をされるばかりでなく、神様ご自身が正しさの最終的な基準です。申命記には、「まことに主の道はみな正しい」（32：4）と書かれています。だから、神様のなさることはいつも正しいと信頼することができます。

また、神様は正しい方なので、私たち人間をその義に従って扱われます。神様は、人間の罪を見逃すことはできず、その義にしたがって、おさばきになるのです。

③神様は愛である

「神は愛です」（1ヨハネ 4：16）とあるとおり、神様ご自身が究極の愛です。聖書の愛は、他の人のために、おしみなく自分を与えることを意味します。神は愛であり、人々の祝福のためにご自身をお与

2 神様について

えになるのです。

神様は、聖であり、義であり、愛であられるゆえに、イエス・キリストをこの地上に送るという大きな決断をなさったのです（ヨハネ 3：16）。

（2）神様は全知全能である

全知とは、すべてのことを知っておられるという意味です。「主は天から目を注ぎ 人の子らをすべてご覧になる。御座が据えられた所から 地に住むすべての者に目を留められる」（詩篇 33：13 - 14）とあるとおり、神様の目は地上のどこにでも注がれており、この地上で起こるすべてのことを知っておられます。それは、だれにも知られることはないと思われている人間の心のうちにまで及びます（ルカ 16：15）。ですからすべてのことをご存知の方に、私たちは安心して祈ることができます。また、神様は過去、現在、未来の出来事についてもご存知です。たとえば、旧約聖書には多くの預言がありますが、語られた当時にはまだ起こっていない出来事でした。そして後に、それらは本当に起こっているのです。

また神様は全能のお方です。全能とは、不可能なことはないという意味です。イエス・キリストの誕生を告げる時、天使ガブリエルはイエス・キリストの母マリヤに、「神にとって不可能なことは何もありません」（ルカ 1：37）と言いました。旧約聖書のヨブ記に出てくるヨブは、「あなたには、すべてのことができること、どのような計画も不可能ではないことを、私は知りました」（ヨブ 42：2）と告白しています。神様は、全能のお方なのです。

（3）神様は変わることがない

神様は、変わることのないお方です。詩篇 102 篇 25－27 節には、

2 神様について

この地上にあるすべてのものはやがて変わってしまうが、神様は変わることがないと書かれています。神様は、この天地が造られる前から存在され、そのすべてが滅びてもなお存在される、つまり永遠に存在されるお方です。神様の存在のあり方、目的、約束も不変です。どんなことがあっても変わらないということは、それだけ信頼にたるお方だということを表しています。



まとめ

神様はこの世界を造られ、治めておられる唯一の創造主です。私たちは、神様のご存在のあり方、ご性質を知ること、この方が信頼に足る方であることを知ることができます。

Q

考えてみましょう

1. 神様がこの天地を造られ、またあなたも造られたことを知って、どう思いますか？
2. 神様のご性質の中で、もっとも心に残ったものはなんですか？その理由もお聞かせください。

人間と罪について

全知全能の愛なる神様が、すばらしい世界と人間を創造してくださいました。それにもかかわらず、この世界にはどうして悪があるのでしょうか？ どうして私たち人間は悪いことを考えたり、悪い行動をしたりするのでしょうか？

ここでは、その謎についていっしょに考えてみましょう。

この課で学ぶこと

1. 私たちは「神のかたち」として創造された

- (1) 「神のかたち」とは何か？
- (2) 「神のかたち」に創造された目的

2. 人間の罪

- (1) 罪とは？
- (2) 罪の影響
- (3) 罪の結果



1. 私たちは「神のかたち」として創造された

創世記1章27節には、「神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された」と書かれています。人間は「神のかたち」として創造されました。では、「神のかたち」とは何でしょうか。

(1) 「神のかたち」とは何か？

① 「神のかたち」とは？

Lesson2 でみたように、神様の根本的な性質が、聖と義と愛であられるので、神のかたちに創造された人間にも、聖と義と愛が与えられています（エペソ4：24、1ヨハネ4：7）。

また、神様は理性と感情と意志を持っておられるので、神のかたちに造られた人間にも理性と感情と意志が与えられています。私たちがいろいろ考えたり、感じたり、一つのことをやり抜いたりできるのは、私たちが「神のかたち」に造られているからです。私たち人間にとって、聖と義と愛、理性と感情と意志は、すべて体を通して表されるものですから、体もとても重要なものです。

②人間は特別な存在

私たち人間が「神のかたち」として創造されたということは、神様と人間との間に特別な関係があることを示しています。

詩篇8篇5節には次のようにあります。「あなたは 人を御使いより わずかに欠けのあるものとし、これに栄光と誉れの冠をかぶらせてくださいました」。人間は被造物としての「栄光と誉れ」を神様から与えられています。神様と特別に親しい人格的關係を持つことができる存在です。

私たちは「神のかたち」に創造されたので、一人一人には尊い価値があります。「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛してい

る」(イザヤ 43:4 前半)。

③善悪の判断ができる

私たちには良心が与えられていて善悪の判断ができます(ローマ 2:15)。神様の善悪の判断基準の基本的なことが、人間には良心という形で与えられているのです。

④男性も女性も「神のかたち」

神様は人間を男性と女性に創造されました(創世記 1:27)。男性と女性は神様の前に平等で、この世界の中で互いに補い合って神様の栄光を現すために造られました。

(2)「神のかたち」に創造された目的

神様は人間を目的をもって創造されました。その目的は大きく3つあります。

①神様を愛するため

「すると彼は答えた。『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい』、また『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』とあります。」(ルカ 10:27)

私たちは神様から愛されているので、その愛への応答として神様を愛し、礼拝する者として造られました。

②互いに愛し合うため

人間はお互いに愛し合うために造られました。最初から社会的な存在として造られたので、他の人を愛し、つながりを持つことができます。「わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」(ヨハネ 13:34)。

③被造物を治めるため

「神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。『生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。』」（創世記1：28）

これは文化命令と呼ばれています。神様によって創造されたすべてのものを正しく管理するために、人間は神のかたちとして創造されたのです。ここで書かれている「地を従えよ」「支配せよ」とは、神様の思いに沿って正しく管理することです。また、「生めよ。ふえよ。地を満たせ。」とありますが、無制限の人口増加や環境破壊を勧められているわけではなく、すべてのことを神様のお考えに従って正しく治めていくことが人間に与えられた責任なのです。

2. 人間の罪

(1) 罪とは？

①罪の始まり（墮落）

神様は初めの人間としてアダムとエバを創造されました。神様は二人を愛し、必要なものをすべて与えて下さっていました。二人も神様と良い信頼関係を持っていました。しかし、二人はサタンに誘惑され、神様の信頼を裏切り、命令を守りませんでした（創世記3章）。これを墮落・原罪と呼びます。この罪の性質が受け継がれ、人間は罪を犯すようになってしまいました。

②神様を神様として認めないこと

聖書には、「あなたには、わたし以外に、ほかの神があつてはならない」（出エジプト20：3）と書かれています。罪の本質は、神様を神様として認めないことです。たとえば、神様以外のものを拝んだり、自分の願いや主義主張、さまざまな物に神様以上の価値を置くことは、神様を神様として認め

ない罪なのです。

人間は神様から離れてしまったので、神様が私たちに望んでおられる基準からずれてしまったのです。私たちに罪があるために、私たちは神様が望まれない行いをしたり、良くない思いをいだく傾向を持っています。私たちは罪を犯すから罪人であるだけでなく、罪人であるから罪を犯すのです（詩篇 14：1）。

③罪の責任

罪に対する責任は人間にあります（ヤコブ 1：14-15）。私たち人間には、食欲、性欲、所有欲、支配欲などの欲求があります。これらの欲求が、神様の秩序をはずれて不適切に用いられる時、罪につながります。さらにサタンがこれらの欲求に働きかけて、私たちを罪に誘惑します。さらにまた、罪ある人間が築いてきた社会も、罪に誘いやすい仕組みを持っています。しかし、罪を選択した責任は私たちにあります。

すべての人間が例外なしに罪人です。パウロは「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず」（ローマ 3：23）と書いています。

(2) 罪の影響

罪は神様との関係や私たちの人生に深刻な影響を与えています。

①神のかたちの破壊



コーヒブレイク 出来事の背後にある罪

この世にあるどんな学問もマスコミも、物事を説明する時に「罪」を認めない傾向があります。ですから表面的、現象的な説明になりがちです。しかし、聖書は人間の心の奥底にある「罪」、多くの出来事の背後にある「罪」を教えてください。こうして、人間、社会、世界を深く、正しく考えることができます。

3 人間と罪について

罪（墮落）は神のかたちにどのような影響を及ぼしたのでしょうか。聖書では、墮落の後人間は神様からの責任を問われる神のかたちであることが書かれています（創世記9：6、ヤコブ3：9）。罪によって、私たちに与えられている「神のかたち」がなくなったわけではありませんが、大きなダメージを受けて、自分中心の思いに支配されるようになってしまいました。

また、罪は人間の全人格（体、理性、感情、意志）に影響しています。罪人は罪深い状況から自分を救い出すことは絶対にできません。それはちょうどおぼれている人が自分で自分を救うことができないのと同様に、不可能なことなのです。

②神様との関係への影響

人間は罪によって、神様との親しい関係を持つことができなくなりました。人間は本当の神様を神様としてあがめることができなくなってしまったのです（ローマ1：21）。

その結果、私たちの人生に以下のような深刻な影響が起こってきています。

a. 自分自身への影響

・自己中心：他人のことを考えるよりも、自分のことをいつも第一に考えます。たとえば、他の人の罪や失敗を責めますが、自分のことには甘くなります。「あなたは、兄弟の目にあるちりは見えるのに、自分の目にある梁には、なぜ気がつかないのですか」（マタイ7：3）。

・奴隷状態：罪はしばしば習慣になってしまい、自分の意志ではやめられなくなります。たとえば、悪口、ねたみ、いじわる、ギャンブルなどがそうです。また、罪が罪を生むという悪循環に陥ることもあります（ヨハネ8：34）。

b. 他者との関係への影響

私たちの多くは人間関係で悩みを抱えています。私たちの人間関係がうまくいかないのもまた罪によります。罪によって自己中心的になればなるほど、

3 人間と罪について

他の人と争いが起こります。他の人の立場に立って共感したり、愛することもできなくなります。

「人から出て来るもの、それが人を汚すのです。内側から、すなわち人の心の中から、悪い考えが出て来ます。淫らな行い、盗み、殺人、姦淫、貪欲、悪行、欺き、好色、ねたみ、ののしり、高慢、愚かさで、これらの悪は、みな内側から出て来て、人を汚すのです。」(マルコ7:20-23)

c. 社会への影響

私たちに罪が入ってしまったために、人間が築いてきた社会も、罪に誘いやすい仕組みを持っています。神様から与えられている性を社会や家庭の祝福のために用いるのではなく、快樂やお金のために使うことが多く見られます。また、世界を正しく管理するのではなく、資源を浪費し環境を破壊し、他の国や人々から奪い取ることも行われています。「この世」全体は神様の支配下にあります。サタンによる罪の影響を受けていることも知っている必要があります(1ヨハネ2:15-17)。

(3) 罪の結果

罪のもっともはっきりした結果は死です。「罪の報酬は死です」(ローマ6:23)。罪によって、私たちの人格全体が神様から離れてしまいました。これを「霊的な死」(滅び)と言います。神様から離れたために、神様を認めたり、正しい判断をすることができなくなりました。人が神様と分離し霊的に死んだままで、肉体の死を迎えると、永遠に神様と分離される「永遠の死」を迎えます。

神様は愛なる方であるとともに、とても聖く正しいお方です。ですから、罪を罰しないままにされることはありません。それは、神様の愛から出ていることでもあるのです。

まとめ

私たち人間は、最初に「神のかたち」として神様にすばらしく創造されたのですが、神様に逆らって罪を犯してしまいました。罪は、個人にも人との関係にもこの世界にも大きな影響を与えています。罪あるままでは私たちは霊的な死（滅び）に至ります。私たちを罪から救うことができるお方は、イエス・キリストだけです。

Q

考えてみましょう

1. あなたは自分に与えられている「神のかたち」を、どのように用いたいですか？
2. あなたは、自分にどんな罪があると思いますか？

イエス・キリストについて

聖書はイエス・キリストが私たちが罪から救うことのできる唯一のお方と言っています。このイエス・キリストとはどのようなお方なのでしょう？

この課で学ぶこと

1. イエス様の生涯

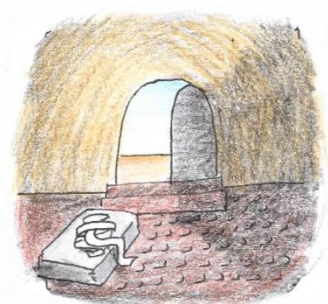
- (1) 誕生
- (2) 救い主としての働き
- (3) 十字架と復活

2. イエス様の死と復活の意味

- (1) 死の意味
- (2) 復活の意味

3. イエス様による救い

- (1) 神であり人であるお方
- (2) 罪のないお方
- (3) 神のかたちの回復



1. イエス様の生涯

(1) 誕生

ヨセフのいいなづけであったマリヤは、「聖霊によって」イエス様を身ごもりました。聖霊によってとは、処女マリヤから罪のない神の御子としてお生まれになったことを表しています。

まことの神様であり真理であるイエス様が人間となって地上に生まれてくださいました（ピリピ2：6-7 前半）。

イエス様は人として生まれることによって、神様がどんなお方であるかを示してくださいました（ヨハネ 1：18）。

イエス様はベツレヘムで誕生し、ガリラヤのナザレで成長しました。家族を支え、母マリヤを助けて大工として働かれました。

(2) 救い主としての働き

イエス様は、およそ30歳になった時、バプテスマのヨハネから洗礼を受け、救い主としての働きを始められました。「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」（マルコ 1：15）と宣言し、神の言葉を伝え、神の国が始まったことを示す数々の奇跡をおこなわれました。

イエス様は12弟子を選び、身近に置かれ、愛を示されました。そして、多くの苦しみを受け、十字架にかけられ、そして三日目によみがえられることを弟子たちに教え始められました（マタイ 16：21）。

また、イエス様は当時の宗教指導者たちの偽善性を鋭く指摘しました。彼らはイエス様の人気をねたみ、邪魔者として命をねらうようになりました。

(3) 十字架と復活

イエス様は十字架につけられる前の夜、弟子たちの足を洗って互いに仕え合うことを教えられ（ヨハネ 13：1-17）、聖餐式を守ることを教えられました（マタイ 26：26-29）。その後、ゲツセマネの園で祈られ、ローマ兵とユダヤ人によって捕らえられました。そしてその翌日、イエス様は極悪人の処刑方法であった十字架にかけられて死なれました。

しかし、約束されたとおりのイエス様は 3 日目に死者の中から復活されました。その後 40 日の間、多くの弟子たちに現れ、ご自分が確かに生きておられることを示されました。その後、再び来られることを約束して天に昇られました。



豆知識

「イエス・キリスト」の意味は？

「イエス」とはヘブル語のヨシュアをギリシャ語に訳した言葉で、「主は救い」という意味の名前です。「キリスト」はヘブル語のメシヤをギリシャ語に訳した言葉で、「油注がれた者」という意味で「救い主」という職務を表しています。

2. イエス様の死と復活の意味

(1) 死の意味

イエス様の十字架の死は、私たちの罪と深い関係があります。イエス様の死には3つの意味があります。

①身代わり

旧約聖書において、神様は人間が犯した罪を赦すために、い

4 イエス・キリストについて

けにえとして動物をささげる制度を制定されました。動物は人間の身代わりでした。

イエス様はご自分を、罪の奴隷となっている私たちを解放するための「身代わり」としてささげてくださいました（Ⅱコリント 5：21）。

②贖い

「人の子も、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのです」（マルコ 10：45）。贖いの代価とは、奴隷を自由の身にするために支払われる身代金のことです。イエス様は罪の奴隷となっている私たちを解放して神様のものとするために、ご自身のいのちを身代金としてささげてくださいました。

③和解

イエス様は神様と人類とを和解させ、対立、疎外の壁を取り除いてくださいました。「神はキリストにあって、この世をご自分と和解させ、背きの責任を人々に負わせず、和解のことば（＝福音）を私たちに委ねられました」（Ⅱコリント 5：19）。

このようにイエス様はご自身を犠牲（いけにえ）としてささげ、私たちの身代わりとなって私たちが受けるべき刑罰を身に負うことで、父なる神をなだめ、私たちを罪の奴隷から贖い、神様と人間との和解をもたらしてくださいました。

（2）復活の意味

イエス様は私たちを救うために十字架で死なれただけでなく、罪と死とサタンに打ち勝ってよみがえられました。イエス様の復活はキリスト教の信仰の中心的教えの一つです。

4 イエス・キリストについて

パウロは次のように書いています。「キリストがよみがえらなかつたとしたら、私たちの宣教は空しく、あなたがたの信仰も空しいものとなります。…そして、もしキリストがよみがえらなかつたとしたら、あなたがたの信仰は空しく、あなたがたは今もなお自分の罪の中にいます」(1コリント 15:14、17)。

イエス様の復活には、少なくとも5つの意味があります。

①イエス様の神性の証明

イエス様は復活されることによって、ご自分が神の御子であることを公に示されました。「御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、聖なる霊によれば、死者の中からの復活により、力ある神の子として公に示された方、私たちの主イエス・キリストです」(ローマ 1:3-4)。

②死に対する神様の究極的勝利の証明

神様はイエス様を復活させることによって、死に対する勝利を明らかに示されました。「しかし神は、イエスを死の苦しみから解き放って、よみがえらせました。この方が死につながれていることなど、あり得なかつたからです」(使徒 2:24)。

③信者の罪の赦しと義認の保証

イエス様は復活されることによって、信じる者の罪が赦され義と認められることを保証されました。「主イエスは、私たちの背きの罪のゆえに死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられました」(ローマ 4:25)。

④信じた者は復活の力をいただき歩む

信じる者が洗礼を受ける時、霊的な意味でキリストと共に葬られ、キリストと共によみがえる経験をします。洗礼を受けた

4 イエス・キリストについて

者は、復活されたキリストのいのちによって生かされて新しい歩みをすることができます（ローマ 6：4）。

⑤ 信仰者の復活を予表し保証する

イエス様の復活は、終末時に起こる信仰者の復活をあらかじめ示し、保証するものです。「神は主をよみがえらしましたが、その御力によって私たちも、よみがえらせてくださいます」（1コリント 6：14）。

3. イエス様による救い

イエス様が地上に誕生されたのは、救いのためです。「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである」（ヨハネ 3：17）。

人間を救うことができるのは、イエス様しかいません。

(1) 神であり人であるお方

人間は罪の状態から自らを救い出すことができません（全的墮落）。そのため、救いは人類以外の誰かにやってもらわなければなりません。父なる神様は、何とかして私たちを救おうとして、大切な御子イエスを十字架にかけてくださいました。

さらにイエス様は本当に人間の一人であったために、人間を代表して私たちを救うことができたのです（ガラテヤ 4：4-5）。

(2) 罪のないお方

罪がある者は、自分の罪のために裁かれるので、他の人を救うことはできません。イエス様は罪のない方であったので、自分の罪の代償として死ぬ必要はありませんでした。イエス様の死は、全人類を罪から救うためだったのです。

以上のように、イエス様の死による以外に救いする方法はありません。イエス様の死は無限の価値を持ち、完全かつ永遠です。ですから、あらゆる時代のすべての人を罪から救うことができますのです。救いはただで与えられた恵みですが、イエス様の死という究極の犠牲を払ったものなのです。

(3)神のかたちの回復

罪人はキリストを信じる信仰によって、キリストのかたちに似る者へと変えられ、失った神のかたちが回復されるのです（ローマ 8：29）。

救われた者は神の子どもとされ（ヨハネ 1：12）、キリストにあって天にあるすべての霊的祝福が与えられます



コーヒブレーク

復活は事実か？

聖書が書かれた時から復活を否定するさまざまな説があります。たとえば、イエス様は実際に死んだのではなく気絶していたとする説、弟子たちはイエス様の幻を見たとする説、弟子たちが間違えて空(から)の墓に行ったとする説、弟子たちがイエス様の遺体を盗んだとする説、イエス様に敵対する者たちがイエス様の遺体を盗んだとする説など。

これらのどの説も論理的に矛盾が生じます。何よりも自分たちも捕らえられることを恐れて隠れていた弟子たちが、復活されたイエス様と出会った後、命をかけてイエス様のことを伝えるようになったこと、土曜日の安息日を守っていた弟子たちがイエス様が復活された日曜日に礼拝を持つようになったことなどは、実際にイエス様の復活が起こったからとしか考えられない大きな変化です。

4 イエス・キリストについて

(エペソ 1:3)。こうして、私たちはキリストのいのちをいただいて、終末時の完成と栄光に向けて、創造の時の神のかたちへと回復されていくのです。

まとめ

イエス様の十字架以外に私たちの救いの方法はありません。イエス様の死と復活は、あらゆる時代のすべての人を罪から救うことができます。救いはただで与えられた恵みです。

Q

考えてみましょう

1. イエス様の死と復活にはどんな意味があるでしょうか？
2. イエス様とあなたにはどんな関係がありますか？

Lesson

5

救いの決心

Lesson4 で学んだように、イエス様は私たちの罪をすべて負って十字架にかかってくださいました。それによって私たちに罪と死から救われる道が開かれたのです。

では、どうしたら私たちは救われるのでしょうか？また救われるとは、どういうことなのでしょうか？

ご一緒に考えてみましょう。

この課で学ぶこと

1. 救われるためには？

- (1) 悔い改め
- (2) 信仰
- (3) 救いの決心

2. 神様の救いの恵み

- (1) 救いの始まり (新生)
- (2) 救いの継続 (聖化)
- (3) 救いの完成 (栄化)

3. 救いの確認

1. 救われるためには？

救われるためには、自分の罪を認め、悔い改めることと、イエス様を救い主として信じる必要があります。

(1) 悔い改め

Lesson3 で学んだように、すべての人は例外なしに罪人です。そして罪は私たちの全人格（体、理性、感情、意志）に影響を及ぼします。この罪の結果は、永遠の滅びです。罪をもった状態では、私たちは神様の喜ばれる歩みなどできないからです。ですから悔い改めの第一段階は、自分の罪を知り（認め）、悲しむことです。

生まれながらの私たちは自分の罪を悟ったり、認めたりすることは難しいものです。私たちが自分の罪を知るのは、みことばと御霊なる神の働きによるのです。自分の罪を認め、父なる神様に赦しを求めるなら、私たちの罪は赦されます。

「もし自分には罪がないと言
うなら、私たちは自分自身を欺
ており、私たちのうちに真理は
ありません。もし私たちが自分
の罪を告白するなら、神は真
実で正しい方ですから、その
罪を赦し、私たちをすべての
不義からきよめてくださいます。」（1ヨハネ1：
8-9）



豆知識

「悔い改め」とは？

旧約聖書が書かれたヘブル語では、「戻る」とか、「立ち返る」という意味がある言葉が使われています。私たちは救われる以前、神様を無視し、神様に背いていました。そんな私たちが神様の方に向きを変え、父なる神様のもとに帰ることが悔い改めです。父なる神様は、悔い改めた人を喜んで迎えてくださるのです。

5 救いの決心

悔い改めの第二段階は、自分の罪に対して悲しみ、罪を告白した私たちが、再び自分勝手な歩みに戻るのではなく、イエス様に向きを変える決心をすることです。悔い改めは後悔とはちがいます。後悔の基準は自分にあります。自分にとって不快であったために後で悔いることが後悔です。しかし、悔い改めの基準は神様にあり、神様に不正を行い、神様を傷つけたという理由で自らの罪を悲しむのです。

あなたも自分の罪と向き合い、悔い改めませんか？ 今まで、本当の神様を信じて従ってこなかったことを、神様の前に心からおわびしましょう。神様が期待されている生き方に達しない罪の生き方を悔い改めましょう。

(2) 信仰

私たちは Lesson4 でイエス・キリストについて学びました。信仰とは、イエス様のなされたみわざが、自分のためであったと受け入れることです。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネ 3:16)

神様はあなたを愛して、ひとり子イエス様をあなたのもとに送って下さいました。そのイエス様はあなたの罪のために十字架にかかって死んで下さったのです。そして死からよみがえって、私たちを天の御国に入れるために、永遠のいのちを用意して下さいました。

(3) 救いの決心

次の2つの質問に YES と答えることができますか？

- ①あなたは、今まで本当の神様を神様として認めず、神様から期待されている生き方からずれていた罪人だと認めますか？
- ②あなたはイエス様が自分の罪のために身代わりとなって十字架に

5 救いの決心

かかって死んでくださったことを信じますか？

ローマ人への手紙10章10節には、「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです」とあります。自分の罪を認め、イエス様を救い主として信じる決心ができた方は、次のお祈りを自分の祈りとして祈りましょう。

「天の父なる神様。私は今まであなたを無視して自分勝手に生きてきました。あなたから離れた罪人でした。どうぞお赦してください。イエス様がこんな私の罪を身代わりに負って、十字架で死んでくださり、3日目によみがえってくださったことを信じます。イエス様を私の救い主として私の心にお迎えします。どうぞ聖書のお約束通り、私の罪を赦し、神の子どもとして新しい人生を歩ませてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン」

このお祈りをする事ができた方は、罪から救われたクリスチャンです！神様はあなたのために救いの恵みを用意してくださっています。

2. 神様の救いの恵み

主イエス様を罪からの救い主と信じて救われると、私たちは新しく生まれ変わり、キリストに似た者へと変えられ、やがて栄光のからだをいただいて、天の御国に住むことができるのです。

(1) 救いの始まり（新生）

イエス・キリストを救い主と信じる信仰によって、私たちは新しく生まれ変わりました。これを新生と言います。新生した私たちは、神

5 救いの決心

様の前に義と認められ、神の子どもとされる特権をいただき、神のかたちが回復するのです（Ⅱコリント5：17）。

① 義と認められる（義認）

義認とは、神様の目から見て、罪人の私たちが義（正しい）と宣告されることです。義認は、ちょうど裁判官が罪を犯した人に無罪宣告をするようなもので、信仰者にキリストの義を転嫁する（信仰者のものとみなす）法廷行為です。義認によって信仰者の立場が死刑囚から無罪宣告を受けた者になり、信仰者に対する神様のさばきは無効になります。

人は罪を犯し、律法を破り、永遠の滅びが宣告されるはずでした。しかし、その罪に対する罰金をイエス様が十字架の死によって払ってくださいました。そのことによって判決は破棄され、罪人は律法の要求を満たしたとみなされるのです。

「働きがない人で（注：私たち）あっても、不敬虔な者を義と認める方（注：イエス様）を信じる人には、その信仰が義と認められます。」（ローマ4：5）

② 神の子とされる

イエス様を救い主と信じた人は、神の子どもとして受け入れられます（ヨハネ1：12）。その結果、第一に私たちは神様からの愛を受けて、神様を愛することができるようになったのです。また人が創造された時に持っていた神様との関係が回復されました。第二にキリストとの共同相続人（ローマ8：17）として神様の栄光を受けることができます。第三に神様に愛されているがゆえに、神様の訓練を受けます（ヘブル12：7、10後半）。

③ 神のかたちの回復

救われた私たちはキリストのかたちに似る者へと変えられ、失われ

ていた神のかたちが回復されます。「神は、あらかじめ知っている人たちを、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたのです。それは、多くの兄弟たちの中で御子が長子となるためです」（ローマ 8：29）。

（2）救いの継続（聖化）

私たちは救われた後、神様の働きによってキリストの聖いかたち
に似る者へと変えられていきます。これは外面的に似ることではなく、特質を受け継ぐことです（Ⅱコリント 3：18）。この世では私たちは完璧に聖い者となることはできません。私たちは全生涯にわたり徐々に御霊によって変えられていくのです。そのようにして私たちがこの世の中で地の塩、世の光としての役割を果たす使命が与えられています。（マタイ 5：13-16）。

（3）救いの完成（栄化）

栄化とは信仰者が霊的に完成されることを意味し、信仰者が死んで主の臨在の中に移される時に起こります。また栄化は信仰者のからだの完成も意味し、イエス様が再臨される時に起こるのです。そして私たちは栄



コーヒブレイク

救われたのに…

なぜ私たちは救われたら、すぐに完璧な人にならないのでしょうか？

それは罪の性質が依然として残っているからです。でも罪を犯してしまうことで、私たちは謙遜に歩み続け、父なる神様の愛と赦しを知り続けます。また、キリストの恵みをもっと味わい、みことばに生きる喜びがますます増すのです。

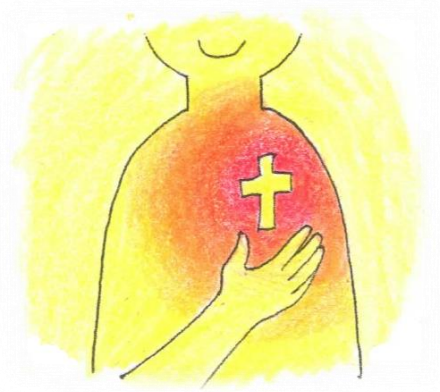
「しかし、罪の増し加わるところに、恵みも満ちあふれました」（ローマ 5：20）とあるとおりです。

5 救いの決心

光のからだをいただいて、永遠に天の御国に住むことになります。神様とともに、涙や悲しみ、苦しみのない御国に住むことこそ、私たちが待ち望むべき最大の祝福です（黙示録 21：4）。父なる神様は私たちが天の御国で共に過ごすことを喜んでくださるのです。私たちの住まいは、今キリストが用意していただきます（ヨハネ 14：2-3）。

3. 救いの確認

イエス様を信じたときに大切なことは、自分が救われたという確信を気分や感情に置くのではなく、「生けた、いつまでも残る、神のことば」（1ペテロ 1：23）を信頼して、その神の約束のみことばに置くことです。



みことば

この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることをないためです。(エペソ 2 : 8-9)

◎質問に答えてみましょう

- ・あなたは、自分の罪を悔い改めて、イエス様を救い主として心にお迎えしましたか？
- ・それは、あなたの努力や力によるものですか？
- ・あなたは誰によって罪の奴隷の人生から救われましたか？
- ・あなたは、そのことを何によって確信できますか？

◎あなたが、イエス様を信じた日にちを記しておきましょう。

私は 年 月 日にイエス様を
わたしの救い主として信じ、心にお迎えしました。

洗礼(バプテスマ)について

あなたは、教会で洗礼(バプテスマ)式を見たことがありますか？
洗礼式は、イエス様を救い主として信じた人がその信仰を神様と教会の前にはっきりと言い表す時です。

この課では、洗礼について考えましょう。

この課で学ぶこと

1. 洗礼はイエス様が命じられたもの
2. 洗礼式の意味
 - (1) イエス様の救いを確認するとき
 - (2) 信仰を告白するとき
 - (3) 教会の一員になるとき
 - (4) イエス様のために生きることを決心するとき
3. 洗礼を受けるために確認すること

1. 洗礼はイエス様が命じられたもの

イエス様が十字架にかかられたとき、一緒に十字架にかけられた強盗の一人はイエス様を信じて救われました。洗礼を受ける時間はありませんでしたが、天に迎え入れられました。洗礼はイエス様を信じ、クリスチャンとなるための必要条件ではありません。けれども世界中の教会は、洗礼をととても大切にしてきました。なぜでしょうか。それは、洗礼はイエス様がご自身を救い主として信じる者にお命じになったものだからです。

神の子としての働きのはじめに、イエス様はバプテスマのヨハネから洗礼を受けられました(マタイ 3:13-17)。また、復活されたイエス様は弟子たちに、「父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマ(洗礼)を授け」なさいと命じられました(マタイ 28:19)。そこで、このイエス様の命令に従い、ペンテコステ以降イエス様を救い主として信じた人々は皆、洗礼を受け、教会に加えられていきました(使徒 2:41)。洗礼は、イエス様が信じる人々に命じられた教会の大切な礼典の一つです。(聖礼典については Lesson7 で詳しく学びます。)

イエス様を救い主として信じているなら、イエス様のご命令に従って洗礼を受けることが望ましいのです。

2. 洗礼式の意味

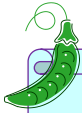
洗礼式には、おもに以下のような4つの意味があります。

(1) イエス様の救いを確認するとき

洗礼式は、信じた人がイエス様の十字架の死と葬りと復活とともにあずかることを象徴的にあらわしています。洗礼を受けることで、イエス様の十字架によって罪から救われたこと、古い人(神様に逆らう

6 洗礼(バプテスマ)について

性質)がイエス様とともに、十字架につけられて死んでしまったこと、そしてイエス様とともに新しいいのち(神様に従う性質)によみがえったことを確認します(ローマ 6:4-11)。私たちは洗礼を受けることによって救われるのではなく、イエス様を信じて救われたので、そのしるしとして洗礼を受けるのです。また洗礼式は、それを見る人々にとっても、自らの救いを確認する恵みのときになります。



豆知識

洗礼の方法

バプテスマということばには、「何かを水に浸す」という意味があります。教会によって洗礼式は、おもにからだを水の中に沈める浸礼(しんれい)という方法か、頭に水をたらず滴礼(てきれい)というやり方でされています。どちらの形でも、罪に死んで、新しいいのちをいただくという意味は同じです。

(2) 信仰を告白するとき

洗礼を受けるとき、その人はイエス様を信じたことを神様と人々の前で自分の口で告白し、自分が信じた者であることを伝えます。洗礼式の前後にどのようにイエス様を信じたかという証しをすることもあります。洗礼によって人々は、その人がクリスチャンになったことを公に認めることとなります。また洗礼は、クリスチャンとして歩み始める出発点にもなります。その意味でも、洗礼は人生の大きなターニングポイント(転換点)になります。

(3) 教会の一員になるとき

教会は歴史を通じて、洗礼を受けた人をクリスチャンとみなすのと同時に、その教会の一員として受け入れてきました。一つの教会の一員となることにより、キリストのからだとしての教会の一部になるの

6 洗礼(バプテスマ)について

です。そしてキリストのからだの一部分として、その教会にとって欠かすことのできない人になります。一人の洗礼者が与えられることは、教会にとって大きな喜びです。

クリスチャンは教会に属することで、神の家族の交わりに加わり、ともに祈り合い、助け合い、励まし合いながら、この地上での歩みをしていきます。一つの教会の一員になることは、この地上でクリスチャンとして生きるためにとても大切です。

(4) イエス様のために生きることを決心するとき

イエス様はあなたを愛し、あなたを罪から救うためにいのちを捨ててくださいました。またイエス様は、毎日あなたとともにいて(マタイ 28:20)、守ってくださいます。パウロはイエス様にそのように愛されて生きている自分のことを、ガラテヤ人への手紙 2章 19-20節で次のように言いました。

「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。」

あなたはこのイエス様の愛にどのように応えますか。

昔、ひとりのイギリス人の少女がドイツのある町に留学しました。彼女はその町の美術館で、一枚の忘れることができない絵に出会ったのです。その絵には、「エツケ・ホモ(この人を見よ)」という題が付けられていました。イエス・キリストが十字架にかかられている絵でした。そしてその絵の下には、その絵を描いた画家のことばが書かれていました。

「私はあなたのために命を捨てた。あなたは、私のためになにをしたか」

6 洗礼(バプテスマ)について

少女はこの絵とこの画家のこぼれを深く心に刻みつけました。イギリスに帰った彼女は成長して、賛美歌作家になりました。彼女の名前は、フランシス・ハヴァーガルと言います。彼女は、ドイツで出会ったあの絵と画家のこぼれをもとに、私たちがイエス様の十字架の愛にどのように応えるかという歌詞の賛美歌を作ったと言われています。(出典『賛美歌・聖歌ものがたり』創元社)

主は私を救うために そのいのちを与えられた
十字架に死なれた主のみ恵み この身をささげて主に応える

主は御国の栄えを捨て 私のため世に来られた
なげきと苦しみ主は負われた 私は主のため何を背負う

主は赦しと自由与え 人を救い愛するため
み父のもとから世に来られた すべてをささげて主に仕える

教会福音讃美歌 457

洗礼式は、私たちを愛して、私たちのためにご自分のいのちを捨ててくださったイエス様のために生きるという決心を新たにする時です。

「キリストはすべての人のために死なれました。それは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためです。」(II コリント 5:15)

3. 洗礼を受けるために確認すること

洗礼は、イエス様を救い主として信じている人ならだれでも受けら

6 洗礼(バプテスマ)について

れます。聖書の勉強をたくさんしなければ受けられない、よい行いをしなければ受けられないといった条件はありません。多くの教会が、このテキストのような基本的な聖書の教を学んで、洗礼を受けるための準備にしています。

教会によって少し違いはありますが、洗礼式では以下のような誓約をします。その誓約に同意できるか、確認してみましょう。

- ・あなたは天地の造り主、生けるまことの神のみを信じますか。
- ・あなたは、神の御子イエス・キリストの十字架の贖いによって救われていることを確信しますか。
- ・あなたは、聖霊の恵みに信頼し、キリストのしもべとして、ふさわしく生きることを願いますか。
- ・あなたは自分の最善を尽くして、教会の礼拝を守り、教会員としての務めを果たし、あかしの生活をするを願いますか。
- ・あなたは（ ）教団の教憲・教規、および、（ ）教会の規則に従い、その純潔と一致と平和のためにつとめることを約束しますか。 （日本同盟基督教団式文より）

その他、ご家族の同意が必要な場合や具体的な準備については、牧師とご相談ください。

神様は、イエス様を救い主として信じた私たちが洗礼を受けて、教会の正式なメンバーになって神様に仕えて生きることを喜んでくださいます。

◆洗礼式式文◆

洗礼式では、式の意味を解説したり、式のプログラムを進めるための式文が使われます。式文の式辞の一例をご紹介します。

「ただいまから、御前に立つ〇〇兄弟（姉妹）の洗礼式を執り行ないます。

洗礼は、主イエス・キリストが制定された礼典であって、父と子と聖霊の御名によって施されます。

すべての人は罪の中に生まれ、その思いとことばと行為においてみこころにかなわず、罪のうちに滅びる者でした。神はイエス・キリストの贖いによって、信じるものを義としてくださり、永遠のいのちを約束されました。洗礼は、主イエス・キリストにあって、罪に対して死に、神に対して生きる者とされ、イエス・キリストの体である教会の枝として加えられる印です。

洗礼を受ける者は、『もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が、この世に生きているのは、私を愛し、私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです』と新たに決意しなければなりません。」

（日本同盟基督教団 1983 年版式文より）

まとめ

洗礼は、イエス様が命じられたものであり、罪から解放され、キリストとともに新しいのちに生きていることを確認するときです。あなたがイエス・キリストを救い主として信じたなら、洗礼を受けることを神様は待っておられます。

Q

考えてみましょう

1. 洗礼を受けることはどうして大切なのでしょうか？
2. 洗礼式でする5つの誓約に同意できるか確認してみましょう。同意できないところがありますか？



教会と教会生活

クリスチャンは、洗礼を受けて教会の一員となり、毎週一緒に礼拝をささげます。教会とはどのようなところなのでしょう？ また、何をするとところなのでしょう？なぜ一緒に礼拝をささげるのでしょうか？考えてみましょう。

この課で学ぶこと

1. 「教会」とは何か？

- (1) 召し出された群れ
- (2) 神の民
- (3) キリストのからだ
- (4) 神の家族

2. 「教会」では何が行われているか？

- (1) 安息日と礼拝
- (2) 聖礼典
- (3) 教会奉仕
- (4) 献金
- (5) 交わり
- (6) 宣教
- (7) 社会に仕える

1. 「教会」とは何か？

聖書は教会について、いろいろなことばで表現しています。

(1) 召し出された群れ

「教会」ということばを聞いて、多くの人は、屋根の上や外壁に十字架がある建物を思い浮かべるかもしれませんが。「教会」ということばは、聖書の原語ギリシャ語では「エクレシア」ということばが使われています。その意味は、「召し出された群れ」です。ですから「教会」は、厳密には、建物を指すことばではなく、聖霊によって召し出された者たちの群れ、つまり神様を信じる人たちの集まりなのです。

「神は真実です。その神に召されて、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられたのです。」(1コリント 1：9)

(2) 神の民

旧約時代はイスラエルの人々が神の民でしたが、新約時代は教会が神の民と呼ばれています。使徒の働きを見ると、ユダヤ人であるか異邦人であるかという区別ではなく、イエス・キリストを信じる信仰者が神の民となったことがわかります。

使徒ペテロはこのように言っています。「しかし、あなたがたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民です。…あなたがたは、以前は神の民ではなかったのに、今は神の民であり、あわれみを受けたことがなかったのに、今はあわれみを受けています」(1ペテロ 2：9-10)。

(3) キリストのからだ

私たちはいろいろな性格や賜物を与えられており、教会として集められ、多様な役割を担い、一つの教会を形作っています。この教会の

姿を、聖書は「キリストのからだ」といいます（1コリント 12：27）。かしら（頭）がイエス・キリストで（エペソ 5：23）、それにつながっているからだの一つ一つの器官が私たち一人一人なのです。ある人は目であり、ある人は手であり、ある人はひざであり…。一人一人が大切な存在です。

重要なことは、からだの一部となっている私たちが、かしら（頭）であるイエス・キリストにつながっている点です。イエス・キリストの思いを受けて一人一人が働き、一つとなって動いていく統一された集まりであるということです。ですから教会は、イエス・キリストの思いは何かを考えながら、活動するのです。

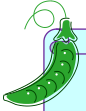
（4）神の家族

聖書は教会を「神の家族」とも表現しています（エペソ 2：19）。様々な年代や職業の方が、互いに励まし合い、慰め合い、助け合い、愛し合う群れです。家族のように親しい関係です。ある時には意見がぶつかることもあるでしょう。しかし、神様に赦された者として、互いに赦し合い和解することで、個人としても群れとしてもさらに成長していけるのです。

私たちは、神の家族として共に礼拝し、聖書を学び、祈り合い、奉仕をします。また、食事やスポーツをともにして、お互いをより深く知り合います。そのような交わりの時間は、クリスチャンにとって大切なのです。

2. 「教会」では何が行われているか？

では、神様が教会に与えている役割は何でしょうか。



豆知識

安息日とは？

神様は天地万物を創造された後、7日目を聖なる日として休まれました（創世記2章）。のちに神様はモーセの十戒の中で、「安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ」（出エジプト20:8）と人に命じられました。ユダヤ教では7日目にあたる土曜日に礼拝をささげます。それに対してキリスト教では、「週の初めの日」にイエス様が復活されたことを記念して、日曜日を礼拝の日にするようになりました。

(1) 安息日と礼拝

私たちは、イエス様の復活を記念して毎週日曜日を安息日として教会に集まり、礼拝をささげます。安息日は、休息と同時に、何よりも神様に礼拝をささげる聖なる日です。礼拝をささげることで真の休息を得ていのちを回復し、神様の聖さに触れて罪に気づかされ、そこから離れる恵みをいただくのです。

礼拝では聖書のみことばが読まれ、説教（メッセージ）が語られます。私たちは、神様への感謝と説教への応答として、神様を賛美し、心を合わせて祈ります。この週に一度の礼拝が

教会として最も大切ですし、私たちも最も大切な時間として出席します。ぜひあなたも、礼拝に続けて出席してください（使徒2:42）。

(2) 聖礼典

「洗礼」と「聖餐」を「聖礼典」と呼びます。聖礼典とは、神の恵みにあずかるために、イエス・キリストによって定められたものです。イエス・キリストを信じた者は、洗礼を受けます。そして、定期的に礼拝の中などで行われる聖餐式に出席します。聖餐式では、

十字架の上で裂かれたイエス様のからだを意味するパンと、流された血を意味するぶどう液をいただきます。それらをいただく時、自らの罪を悔い改めます。そして、イエス様が私のために十字架にかかり贖ってくださったことを思い、感謝します。この聖餐を、私たちは主が来られるまで続けていくのです(1コリント 11：23-26)。

(3) 教会奉仕

クリスチャンとして歩んで行く時、私たちには「神さまに喜ばれたい、神さまの愛に応えたい」という思いが湧いてきます(IIコリント 8：2)。それが教会生活の中では、特に「教会奉仕」と「献金」という具体的な形となって表れます。

「教会奉仕」は時間と労力を献げるもので、礼拝の司会や奏楽、祈り、掃除、食事作りなど、様々な事柄があります。教会が必要としている奉仕はたくさんありますので、牧師や役員と相談して、あなたにできる奉仕から取り組んでみましょう(1ペテロ 4：10-11)。

(4) 献金

「献金」はお金を献げるものです。月定献金(十分の一献金)をはじめ、礼拝献金、感謝献金、指定献金など、いろいろな項目があり、そのときどきに神様に感謝を表します。指定献金の中には、会堂を建てるためや維持するための会堂献金、宣教師を支援するための国外宣教献金、国内の開拓伝道を支えるための国内宣教献金などがあります。献金は、神様への感謝を表す大切な一つのささげ物です。ですから、喜んで神様にささげましょう(IIコリント 9：6-8)。

このように、私たちは教会奉仕と献金をすることで、神様と教会に仕えることができるのです。

(5) 交わり

イエス・キリストによる十字架の贖いによって、私たちは神様との交わりを回復されました（コロサイ 1：20）。神様との交わりに入った者は、神の家族の交わりにも加えられます。神様からの恵みを分かち合い、互いに励まし合い、助け合い、支え合う関係になるのです。

また交わりの中で、私たちは自分の良いところや罪深さも知ることができ、自己理解が深まります。交わりは、互いを活かすことや、補い合うことにもつながります。そのような交わりの豊かさを味わっていくのが教会です。

教会は、信仰の仲間や神の家族の楽しい群れです。しかし、その教会でも複雑な問題を抱えることもあるでしょう。クリスチャンは、罪が赦されている人ですが、罪がなくなっている人ではありません。私たちは教会の中で、天国に入るのにふさわしい人に次第に変えられていく「工事中」の人間なのです。ですから、互いに赦し合いながら、成長していきましょう。

(6) 宣教

宣教とは、神様の愛やイエス・キリストの十字架について、まだ知らない人々に伝えていくことです。

私たちは個人的に、自分の家族、友人に神様を紹介します。また教会として、伝道集会やコンサート、バザーなどの企画をして多くの人を教会に招き、キリスト教に触れていただくことを目指します。また国外へ宣教師を送り、それぞれの教会が支援することで神様のことが世界中に伝えられています。

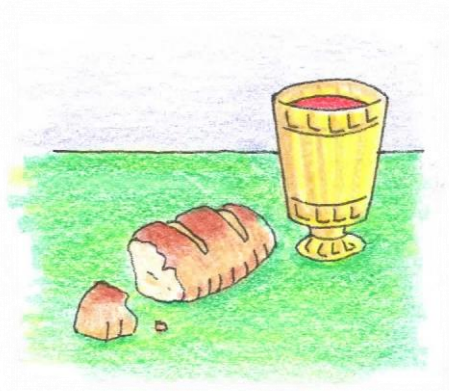
「ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とみなさい」（マタイ 28：19）と言われたイエス様のことばを受けて、教

会の多くの活動が宣教を目的に行われています。

(7) 社会に仕える

教会によっては、置かれた地域に合わせて、いろいろな取り組みをしています。幼稚園や保育園などの幼児教育に取り組んだり、介護施設を造って福祉に取り組む教会もあります。地域行事に積極的に参加する教会もあります。このような活動で、地域に溶け込み仕えることも、教会として大切なことです(マタイ 22:39)。

また、憲法、戦争、安全保障、貧困、差別、労働環境、家族問題、生命倫理、環境破壊、人身売買等の社会が抱える課題に、教会として発言することもあります。教会は、神様から「見張り人」としての役割を与えられています(エゼキエル 3:17)。これも、「地の塩、世の光」として誠実に社会に仕える一面と言えるでしょう(マタイ 5:13-14)。



まとめ

教会とは、神様に召し出された人々の集まりです。そこに集う人々は、イエス・キリストをかしらとする体の各部分として大切な役割を果たします。また神の家族は、一緒に集まって礼拝をささげ、この世の人々に神様の愛を伝えていくのです。

Q

考えてみましょう

1. 教会について、あなたが一番印象に残ったことは何でしょうか？
2. あなたは具体的に、どのように教会に仕えることができるでしょうか？

クリスチャンの生活

このテキストもいよいよ最後の課になりました。でも、クリスチャンの生活は、テキストが終わったから終了とか、何年たったから卒業ということはありません。このテキストの学びが終わってからも、クリスチャンの生活は生涯にわたって続きます。

では、クリスチャンの生活とはどういうものなのでしょう？

この課で学ぶこと

1. 聖霊の働き

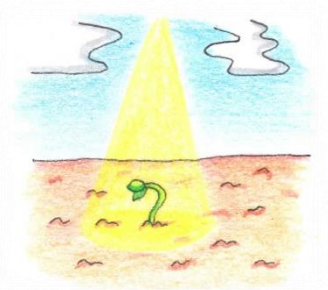
- (1) 罪を示し、悔い改めと信仰に導く
- (2) もうひとりの助け主
- (3) イエス様を伝える力をくださる

2. 神様との関係を深める

- (1) みことば
- (2) 祈り

3. 証しすること

- (1) ことばによって
- (2) 生き方によって



1. 聖霊の働き

クリスチアンの生活は、聖霊とともに歩む歩みといえます。Lesson 2で学んだように、神様は、父なる神、子なる神、聖霊なる神の三位一体であられるお方です。聖霊は旧約時代にも、イエス様の地上での生涯の間も働いておられました。聖霊の働きがはっきりと現れるようになるのは、イエス様の復活から約 50 日後、ペンテコステの日になってからです（使徒 2：1-4）。聖霊はおもに次のように働いてくださいます。

(1) 罪を示し、悔い改めと信仰に導く

生まれつきの私たちは、自分が神様から離れた罪人であると気がつくことも、神様に目を向けることもできません。しかし聖霊の働きによって、私たちは自分の罪を悔い改め、救い主イエス・キリストを信じ、神様のもとに帰ることができるのです。イエス様は聖霊について、「その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世の誤りを明らかになさいます」（ヨハネ 16：8）と言われました。聖霊は私たちが神様から離れた罪人であることを示してくださいます。

(2) もうひとりの助け主

イエス様は聖霊を「もう一人の助け主」（ヨハネ 14：16）と紹介されました。聖霊はイエス様を救い主として信じた時から、私たちの中に住んでくださるお方です（使徒 2：38、1コリント 6：19）。赤ちゃんがお母さんのお乳によって成長するように、イエス様を救い主として信じた人は、聖霊による新しいいのちの力によって成長します。クリスチアンの生活は聖霊に導かれる生活なのです。

イエス様は十字架にかかれる前、弟子たちに「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなた

がたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます」(ヨハネ 14:26)と約束してくださいました。礼拝でみことばが語られる時、聖書の学びの時、聖霊は私たちの心を開き、神様のことがわかるように助けてくださるお方です。

また、祈る時、聖霊は私たちを助けてくださいます。「同じように御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないめきをもって、とりなしてくださるのです」(ローマ 8:26)。

こんなに心強い「助け主」が、クリスチャンには与えられているのです。

(3) イエス様を伝える力をくださる

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります」(使徒 1:8)。イエス・キリストが死からよみがえり、天に昇られる時、弟子たちに聖霊の約束が与えられました。そしてペンテコステの朝、弟子たちに聖霊が下ります。すると彼らは力を受けて、イエス様のことを伝え始めました。彼らはイエス様を伝える証人となったのです。

聖霊は、イエス・キリストを伝える力を私たちにも与えてくださいます。そして私たちの口、私たちの生き方を通して、イエス様を信じる人たちを起こしてくださるのです。

2. 神様との関係を深める

誰かと親しくなるためには何が必要でしょうか。相手のことをよく知ること、また自分のことを相手によく知ってもらうことではないでしょうか。神様との関係を深めるためには、神様を知ること、神様に自分のことをよく知っていただくことが大切です。

ここでは、神様との関係を深めるために必要な、みことばを聞き、祈ることについて学びましょう。多くのクリスチャンは、一日のどこかで、それぞれが定めた時間に、神様の前に静まって、聖書を読み、祈る時（ディボーション、静思の時）を持っています。

（1）みことば

〈聞く〉

聖書を読むことは、神様の語りかけを聞くことです。「主よ、お話しください。しもべは聞いております」（1サムエル3：9）。神様は聖書のみことばによって、いつもわたしたちに語りかけてくださるお方です。

私たちが身体を養い、健康を保つために食事をするように、クリスチャンの魂の養いと健康のためには、毎日聖書を読むことが必要です。神様はみことばによって私たちを霊的に養い、成長させてくださるお方だからです。「生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、霊の乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです」（1ペテロ2：2）。

聖書を毎日読むためには、次のような方法があります。

- ・聖書を最初から最後まで、少しずつ読んでいく。
- ・通読表を使って読む。
- ・聖書日課、ディボーションガイドを使って読む。

〈思いめぐらす〉

聖書を読んで心に残ったみことばは、一日の中で何度も思いめぐらしてみましょ。主のおしえを喜びとし 昼も夜も そのおしえを口ずさむ人。その人は 流れのほとりに植えられた木。時が来ると実を結び その葉は枯れず そのなすことはすべて栄える」(詩篇 1:2-3)。

みことばを思いめぐらす時に、ぜひ次の問いを考えてみてください。

- ・このみことばを通して、神様は私に何を語っておられるのだろうか。
- ・今日どのようにしたらこのみことばを実行できるだろうか。「みことばを行う人になりなさい」(ヤコブ 1:22)。

(2) 祈り

〈神様との会話〉

祈りは神様との会話です。神様への語りかけであるとともに、神様からの語りかけを聞くことでもあります。イエス様はいつも神様に「アバ (お父さん)」と親しく呼びかけておられました。同じように、クリスチャンにもまた、神様に「お父さん」と話しかけるすばらしい特権が与えられているのです。イエス様は天の父に呼びかける「主の祈り」を教えてくださいました(マタイ 6:9-13、ルカ 11:2-4)。



豆知識

いつでも、どこでも

イエス様は、朝でも、夜でも、いつでも、天の父に祈っておられました(マルコ 1:35、マタイ 14:23)。私たちも、いつでも、どこでも、どんなことでも神様にお話しすることができます。うれしかったこと、悩んでいること。神様はあなたのすべての祈りを聞いてくださるからです。

〈どう祈る？〉

・ 賛美、感謝

祈りが一方通行の願い事ばかりになってしまうことがあります。祈る時は、まず神様のすばらしさを賛美すること、神様がしてくださったことへの感謝を伝えることから始めましょう。「わがたましいよ、主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな」(詩篇 103:2)。

・ 罪の告白

罪は、あなたと神様との関係を弱くしてしまいます。また、罪の意識は祈ることの妨げとなります。もし自分が罪を犯したと気づいたときには、すぐに神様に罪を告白しましょう。神様はイエス様の十字架のゆえに、あなたの罪を赦してください。「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます」(1ヨハネ 1:9)。

・ 願い、とりなし

自分の願いを神様に伝えます。また、他の人々のために祈ることを「とりなしの祈り」と言います。教会の中には、あなたのために祈ってくれている人がいます。クリスチャンのすばらしいところは、いつも誰かに祈られていることです。あなたも、教会の皆さんのために、家族のため、友人のため、職場、学校、地域、世界のために祈る人になってください。

3. 証しすること

イエス様のことを伝えることを「証しする」といいます。すべてのクリスチャンには、イエス様のことを伝えるすばらしい使命が与えら

れています。私たちを通して、まだイエス・キリストを知らない人たちが、このお方を知るようになるのです。私たちは、自分の力では、イエス様のことを伝えることはできませんが、聖霊が「証する」力を与えてくださいます（使徒1：8）。

（1）ことばによって

ことばによって、私たちはイエス様のことを伝えることができます。自分はイエス様を知る前はどうかだったのか。どうしてイエス様が必要だと気づいたのか。イエス様はあなたをどのように変えてくださったのか。あなたにしか語れない、イエス様とのストーリーがあるのです。祈りながら、語るのにふさわしい時が与えられるのを待ちましょう。

「むしろ、心の中でキリストを主とし、聖なる方としなさい。あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでも、いつでも弁明できる用意をしていなさい」（1ペテロ3：15）。

あなたには、イエス様のことを伝えたいと思っている人がいるでしょうか。まず、その人のために祈りましょう。神様はその人のことを愛し、誰よりも知っておられるお方です。あなたにイエス様のことを知らせてくれたのは誰でしょうか。今度は、あなたの番です！

（2）生き方によって

クリスチャンは生き方によって、「世の光」（ヨハネ8：12）であるイエス様を証しすることができます。「あなたがたは地の塩です。…あなたがたは世の光です。」（マタイ5：13、14）。

現代の世界は、人間の罪ゆえの大きな問題を抱えています。私たちの周りでも、いじめや差別、不正などの悪はいつこうになくなりません。あなたの職場や置かれている場所ではどうでしょうか。何が正しくて、何が正しくないのか、多くの人がその答えを見つけることがで

きなくなっています。そんな今、クリスチャンの生き方が問われています。

クリスチャンは、この世界に神様のみこころが行われるために、イエス様によって、職場、学校、家庭、地域など、今いる場所に遣わされているのです。

「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします」(ヨハネ 20:21)。

まとめ

クリスチャンの成長を助け、イエス様の証人となる力をくださるのは聖霊なる神様です。聖霊の助けの中で、みことばを聞き、祈ることによって、神様との関係は深められていきます。クリスチャンの使命は、ことばと生き方によって、イエス様を証しすることです。

Q

考えてみましょう

1. あなたはイエス様のことを誰に一番伝えたいですか？
2. この世界に神様のみこころが行われるために、あなたには何ができるでしょうか？